



研修医日記

作成者：芦田 雄汰朗（2年次）

時候不順の折、皆様におかれましては、どのようにお過ごしでしょうか。

私にとっては誕生月であります。梅雨の時期かつ祝日もないとあれば、なかなか風当たりの強い月であるように感じます。

さて、2年次研修医となってから、早くも2ヶ月が経ちました。できることが増えてくると出来ないことが目立ち、うまくいった事があればうまくいかなかったことで気持ちが落ち込むことが多くなったように感じます。医師としては2年目ですが、医「道」の果てしなさを改めて思い知らされました。

「道」と聞くと、まず思い出されるのは武道であり、とりわけ私にとって剣道は我が人生に沿う道の一つであると考えております。3年間離れていてもなお日々の研修に剣道の教えが見え隠れすることが多いです。有名な言葉の一つに「守破離」というものがあります。今年の4月から1年次研修医の先生方と働くことになり、つまり後輩が職場にいる状態となったわけです。このような環境の変化もあり、この言葉を思い出すようになったのではないかと考えております（何となく読んだ医学書に書かれていたのも理由の一つでもあります）。「守破離」は教えに対する自身への取り込み方の順序を示したものです。簡単に言えば、まずは教えを守り、次第に破り、最後には離れる、ということです。医師として働き始めて2年目の私にとっては当然教えを守ることがマストであると思います。さて、若輩者の私ではございますが、後輩が出来たということは自然と誰かに教えるという場面が生じてくるわけです。仰々しく申し上げておりますが、中学、高校、大学の部活を中心にそのような場面は今までもあったのです。しかし、何度経験しても「教える」ということの難しさを感じるのみで、コツというのは一貫性がなく明確な答えが得られないのが現状です。答えが無いものであることは当然分かっているものの、実際に教える場面は無数にあり、対応する必要があります。結局、トライ&エラーしかないのではないかという結論に至りました。どれだけ頑張っても円周率は無理数です。四半世紀で法則を得るなど難しいのかもしれませんが。

今後、教える立場でもあり、教わる立場でもあります。これは一生続くものです。それはつまり「守破離」が人生につきまとうものであるということではないかと思えます。まずは教えを守り、研鑽を積んでいき、破るタイミングを待つのみです。今月で一つ歳をとります。今がそのタイミングでないことは確かです。

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。